

有田町

保存版

見える場所に保管して
お使い下さい。

ハザードマップ

●洪水ハザードマップ

●土砂災害危険箇所ハザードマップ

日頃から災害に
備えておきましょう。

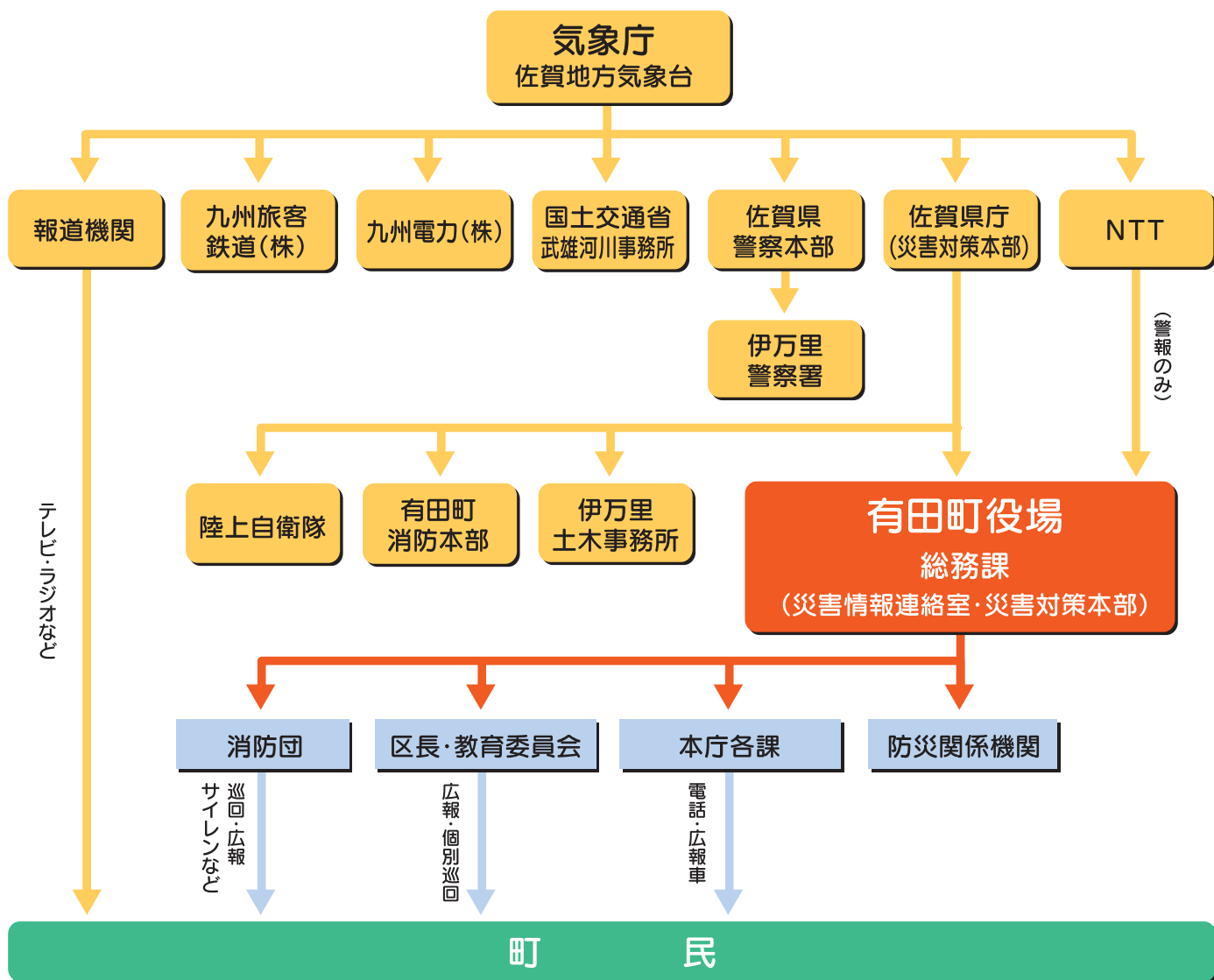


災害情報について

日頃から災害情報に注意し、「もしも…」の時に備えてください

気象情報の伝達方法

災害に結びつく重要な気象情報(大雨・洪水警報、大雨・洪水注意報)や、町からの避難情報は、次のとおり伝達されます。



気象情報の種類と基準

■気象情報の種類

種類	発表の時期
情報	注意報・警報を補完する必要がある場合等
注意報	災害が起こる恐れがある場合
警報	重大な災害が起こる恐れがある場合

■气象台による大雨・洪水警報・注意報の発表基準

	警報	注意報
大雨	・1時間雨量60mm ・土壌雨量指数162	・1時間雨量40mm ・3時間雨量70mm ・土壌雨量指数113
洪水	・1時間雨量60mm ・有田川流域雨量指数17 ・3時間80mmかつ 有田川流域雨量指数13	・1時間雨量40mm ・3時間雨量70mm ・有田川流域雨量指数7

※土壌雨量指数…土壌中に貯まっている雨の量を指数化したものです。
※流域雨量指数…流出量と傾斜に沿って集まる水の量を指数化したものです。

インターネットで見る災害情報

気象情報・災害情報をインターネットで見られます！

気象情報や災害情報を知るには、テレビやラジオのほか、インターネットでも知ることができます。放送時間が決まっていないため、知りたい時にいつでも情報を得られる利点もあります。



防災情報関係ホームページ

佐賀県ホームページ ・「防災・減災さが」→水位情報・雨量・土砂災害情報など。 http://www.pref.saga.lg.jp/	国土交通省武雄河川事務所 ・防災インフォメーション→リアルタイム情報・事前情報など。 http://www.qsr.mlit.go.jp/takeo/
国土交通省佐賀国道事務所 ・道路雨量情報、道路規制情報、道路工事情報など。 http://www.qsr.mlit.go.jp/sakoku/	国土交通省防災状況提供センター ・国土交通省の防災関連ページ。リアルタイムレーダーが見れます。 http://www.bosaijoho.go.jp/
国土交通省「川の防災情報」 ・国土交通省の雨量、水位などの防災情報HP。 http://www.river.go.jp/	佐賀地方気象台 ・警報、注意報や気象観測資料など。 http://www.fukuoka-jma.go.jp/saga/saga1.htm



佐賀県ホームページ「防災・減災さが」



国土交通省武雄河川事務所「防災情報」



国土交通省佐賀国道事務所「防災情報」

災害時の緊急連絡

災害時には、多くの人が電話を利用するため、電話が繋がりにくくなります。そのような場合にNTTが設置する『災害用伝言ダイヤル』を利用して家族や友達などの連絡に役立てましょう。

●利用方法

ガイダンスに従って操作

1 7 1 をダイヤル

録音 1

再生 2

被災地の電話番号(市外局番から)

0 9 5 5 - △ △ - × × × ×



問い合わせ先

局番なしの「116」

伝言(再生)の時間は1件あたり30秒です。また伝言の保存は2日間で、一つの電話番号について最大10件まで録音できます。

※携帯電話やPHS、NTT以外の通信事業者の電話からのご利用については、ご契約の各通信事業者にお問い合わせ下さい。

携帯電話・PHSからは、フリーアクセスへ。

0800-2000116

mail:saitai@west.ntt.co.jp

佐賀県防災・安全・安心情報配信システム

県では、県民の皆さんの安全・安心を確保するための一助として、携帯電話等のメール機能を使った各種防災情報等を配信するシステム「**防災ネット あんあん**」を運用しています。

みなさんもぜひ登録して、地域の防災活動や安全・安心の確保に役立てましょう！

<配信される情報>

1. 防災情報 気象警報（大雨、洪水、暴風など）、地震情報、津波情報、台風情報等
2. 防犯情報 声掛け事案、不審人物の出没など犯罪の前兆に関する情報等
3. 緊急情報 大規模な事故、テロ発生など緊急に伝達が必要な情報等
4. 火災情報 火災の発生、鎮火に関する情報
5. 災害発生時の安否確認情報



「防災ネット あんあん」登録方法



携帯電話等から
<http://esam.jp> へアクセス
左図のQRコードを読み取るとすぐにアクセスできます。

noreply@esam.jpから
登録完了のメール✉がきます。

かんたん登録 か **詳細登録**
を選択し空メール✉を送信

noreply@esam.jpからメール✉が送られてきます。
メールに記載されているURLへアクセスして
利用者登録を行います。

・迷惑メール対策をされている方は、esam.jpからのメールを受信できるよう設定してください。
・パソコン等のメールアドレスでも登録できます。

QRコードは(株)デンソーウェブ登録商標です。

非常時持出し品チェックリスト

災害時に困らないよう常備しておきましょう。

<input type="checkbox"/> 飲料水 一人一日 3ℓが目安。 	<input type="checkbox"/> 医薬品 消毒薬・胃腸薬・脱脂綿・バンソウコウ・包帯・持病の薬。 	<input type="checkbox"/> 手袋(軍手) ガレキの撤去 や救助に、厚手 のものを用意。 	<input type="checkbox"/> 乾電池予備 ラジオや懐中電灯に使用するものを少し多めに。 
<input type="checkbox"/> 食料品 乾パン・缶詰・ビスケット・チョコレートなど。 ※赤ちゃんのいる家庭は、粉ミルク・ほ乳びんなども。 	<input type="checkbox"/> 貴重品 現金(小銭も)・預金通帳・印鑑など。  ※いざという時、すぐ持ち出せるように保管場所を決めておきましょう。	<input type="checkbox"/> ろうそく 漏れない様にビニール袋に入れて、保管する。 	<input type="checkbox"/> 衣類 雨具・下着・ジャンパー・タオルなど。 
<input type="checkbox"/> 缶切り 多機能なもの が便利。 	<input type="checkbox"/> ヘルメット・防災頭巾 飛来物や落下物から頭を保護するものをすぐに取り出せる所に。 	<input type="checkbox"/> 懐中電灯 夜間、すぐに手の届く場所に。 	<input type="checkbox"/> 毛布 寝袋や体温を逃がさないサバイバルシートなども重宝。 
<input type="checkbox"/> マッチ・ライター 湿気やガス切れに注意。防水マッチも市販されている。 	<input type="checkbox"/> ラジオ 情報収集に欠かせない。懐中電灯と一体型のものも便利。 	<input type="checkbox"/> 運動靴 避難する時に怪我を防止するために、すぐに取り出せる所に。 	

※ にチェックを入れて確認して下さい。

平常時1

普段から万が一の事態に備え準備しておきましょう。

平常時の心得

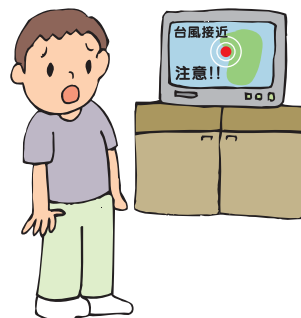
家族で確認

- 自宅や職場が浸水想定区域内に入っているか確認しましょう。
- 浸水想定区域内に入っている場合、その場所の浸水想定がどのくらいの深さなのか確認しましょう。
- 家族で避難時の行動について話し合っておきましょう。



情報の確認

- 普段からテレビやラジオ、インターネットで、気象状況や災害情報に注意を払いましょう。
- 町からの情報に注意し、近所の方々と情報交換しましょう。



避難所の確認

- 災害時には自宅に一番近い避難所が使えない事態も考えられます。近い避難所を2箇所以上確認しておきましょう。
- 自宅から避難所まで実際に歩いてみて、周辺の土地が水に浸かった場合など避難経路の周囲に側溝や水路など危険な箇所がないか確認しておきましょう。



持出し品の確認

- 避難時の持出し品は、日頃から準備しておき、置き場所を決めておきましょう。
- 非常食や飲料水などは、定期的に新しいものと取替えましょう。
(飲料水の目安: 1人1日3リットル)



風水害に対する対策

1 家の補強を行う!

台風が接近した場合、家や看板などの補強を行い、二次災害を未然に防止します。補強する箇所は、雨戸、窓ガラス、塀、アンテナ、看板などです。

2 災害・気象状況を注意深く聞く!

台風情報や大雨情報に注意し、災害に対する心構えや非常用品等の準備を行います。また、町からの情報にも注意を払います。

3 非常品のチェックを行う!

停電・断水などを考えて、食料、飲料水、懐中電灯、ライター、ラジオ、医薬品等を非常用リュックに入れておきます。

4 災害の前兆を素早くつかむ!

住宅が山間地・河川付近など危険箇所にある場合、災害情報と土砂崩れなどの前兆に注意をし、町からの避難情報に注意を払います。

屋内の対策

- 外からの飛来物に備え、カーテンやブラインドを閉めておく。
- 懐中電灯やラジオ、予備電池などを準備しておく。
- 断水に備え、飲料水を確保する。また、浴槽に水を溜め、トイレなどの生活水の確保を行う。
- 浸水に備えて、家財道具・食料品・衣類等を高い所に置き、貴重品などの非常持出し品を準備する。

平常時2

いち早く災害の前兆を認識し、避難行動に役立てましょう。

災害の前兆、目安を知る

雨量と風の強さの目安

1時間の雨量と降り方

1時間雨量(ミリ)	雨の降り方
10~20 (やや強い雨)	雨の音で話し声が良く聞き取れない。 この程度の雨でも長く続く時は注意が必要。
20~30 (強い雨)	傘をさしていてもぬれる。ワイパーを速くしても見づらい。側溝や下水があふれる。
30~50 (激しい雨)	道路が川のようになる。 危険地帯では避難の準備が必要。
50~80 (非常に激しい雨)	滝のように降る。傘は全く役に立たなくなる。 土石流が起こりやすい。多くの災害が発生する。
80以上 (猛烈な雨)	息苦しくなるような圧迫感がある。恐怖を感じる。雨による大規模な災害が発生する恐れが強く、厳重な警戒が必要。

風と被害

平均風速(m/秒)	人への影響・屋外の様子
10~15 (やや強い風)	風に向かって歩きにくくなる。 樹木全体が揺れる。電線が鳴る。
15~20 (強い風)	風に向かって歩けない。転倒する人も出る。 小枝が折れる。
20~25 (非常に強い風)	しっかりと身体を確保しないと転倒する。 鋼製シャッターが壊れ始める。
25~30 (非常に強い風)	立ってはいられない。屋外での行動は危険。 ブロック塀が壊れ、樹木が根こそぎ倒れ始める。
30以上 (猛烈な風)	屋根が飛ばされたり、木造住宅の全壊が始まる。

危険な前触れを知る

雨量が1時間に20ミリを超える場合や、降り始めからの雨量が100ミリを超える場合は、特に注意しましょう。

崖崩れの前兆

- 小石がぱらぱらと落ちてくる。
- 地面にひび割れができる。
- 普段出ている湧水の量が増加したり、濁ったりしてくる。



地滑りの前兆

- 沢や井戸の水がにごる。
- 地面にひび割れができる。
- 斜面から水が噴き出す。
- 樹木が傾いたり、倒れたりする。



土石流の前兆

- 山鳴りがする。
- 雨が降り続けているが、川の水位が下がる。
- 川の水が濁り、上流から木などが流れてくる。
- 火薬のような臭いがする。



さまざまな土砂災害

崖崩れとは

「崖崩れ」とは、地中に染み込んだ水分が、土の抵抗力を弱め、雨や地震の影響で、斜面が突然崩れ落ちる現象をいいます。斜面が崩れるスピードが速いため、早めの避難が肝心です。



地滑りとは

「地滑り」とは、粘土などの滑りやすい層を境に、その地面がそっくりズルズルと動きだし、広い範囲に被害を及ぼします。長雨や大雨の 때가特に危険です。



土石流とは

「土石流」とは、大量の土・石・砂などが、集中豪雨などの大量の水と混じり合って津波のように流れ出てくれるので、破壊力も大きくスピードも早いため、早めの避難が肝心です。



避難時1

おちついて早めに行動し、決められた場所へ避難しましょう。

避難時に注意すること

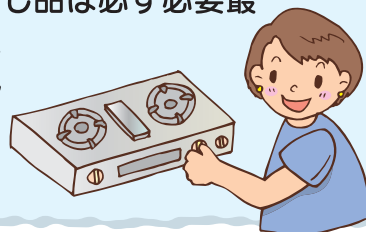
災害情報に注意

- テレビ、ラジオで最新の気象情報、災害情報に注意しましょう。
- 関係機関や災害対策本部からの情報などにも注意しましょう。



家の戸締まりに注意

- 避難の際は、火の始末と戸締まりを行いましょう。
- 避難時の持出し品は必ず必要最小限になるようまとめましょう。



状況の変化に注意

- 不安を感じたら早めに避難しましょう。
- 高齢者・子ども・身体に障害のある方がお住まいの世帯では、特に早めの避難が必要です。
- 避難するときは、1人で行動せずに、近所の人達と声を掛け合い一緒に避難しましょう。



身の回りの安全に注意

- 徒歩で避難しましょう。車を使つての避難はかえって危険があります。
- 避難時の荷物はリュックなどに入れ、できるだけ両手が空くようにします。
- 1人で夜の間の避難は危険です。できるだけ明るいうちに避難しましょう。



洪水の中での避難の仕方

無理に水の中を歩かない!

歩ける深さは男性で約70cm、女性で約50cm。水深が腰まである場合は無理は禁物です、水に浸っていない場所で救助を待ちましょう。



幼児や高齢者の安全を確保する



高齢者や身体の不自由な人は背負いましょう。幼児は浮き袋、乳児はベビーバスを利用して安全を確保して避難しましょう。

移動は常に安全を確認しながら行う

水面下はどんな危険が潜んでいるかわからないので、長い棒を杖代わりにして安全を確認しながら歩きましょう。また、はぐれないようにお互いの身体をロープで結んで避難しましょう。特に子どもから目を離さないように!



靴は水中でも脱げないものを選ぶ

裸足、長靴は禁物。ひもで締められる運動靴が良いでしょう。



逃げ遅れてしまったら

避難の前に万が一浸水し避難できなくなったら、なるべく外に出ず、2階、屋根など高い場所に移動してください。夜間は、懐中電灯などであなたの存在を知らせてください。

避難時2

助け合いの心で、地域の方々全員が避難できるよう協力願います。

自主防災組織づくりの取組み

自主防災組織とは

災害発生時、公共の防災機関は全力をあげて防災活動を行います。様々な悪条件により全ての地域に対応する事が困難になります。このようなときに自分の身は自分で守る、ということが自主防災です。しかし、個人の力には限界があり、かえって危険な場合もあります。そこで、地域ぐるみで助け合い、協力しあって、統率のとれた行動をとることが、地域の防災力の向上には重要であり、そのために自主防災組織づくりが求められます。町では、この重要性、必要性を理解してもらい、自主防災組織を推進して行きます。

災害時要援護者への配慮

災害時要援護者が安心して暮らせる地域づくりへ！

災害時など、災害時要援護者の方々が安心して避難が行えるように、日頃から交流を深め、災害時における対策を講じるなど、コミュニケーションを図り、地域が一丸となって支援の手を差し伸べるように配慮をお願いします。

災害時要援護者とは？

高齢者や身体の不自由な方、乳幼児、外国人など年齢や身体の障害、言葉の壁によって、災害発生時の対応に何らかの支援が必要な方を『災害時要援護者』といいます。町では、災害時等における災害時要援護者の方々の支援体制を強化し、安全確保に努めます。皆様のご理解とご協力をお願いします。

避難情報の目安と行動

避難情報の種類

避難情報の目安

町民の方々の行動

避難準備情報

- 大雨が降り続き洪水や土砂崩れなどの危険がある場合に発信。

- 家族等との連絡、非常持出し品の確認など避難準備を開始。
- 災害時要援護者など、避難に時間を要する方は、指定された避難所へ避難を開始。

避難勧告

- 人的被害の発生する可能性が明らかに高くなった状態に発令。
- 避難の指示ではありませんが、安全を確保するために避難を促すものです。

- 指定された避難所へ避難を開始。
- 災害時要援護者等の避難確認を完了。
- 災害時要援護者の方が避難中の場合は、優先的避難にご協力下さい。

避難指示

- 人的被害の発生する可能性が非常に高く、大変危険な状態に発令。

避難対象地区の人は必ず避難

- 避難勧告発令後、避難されていない方は直ちに指定された避難所若しくは最寄りの避難所に避難します。
- 避難勧告発令後、避難中の方は確実な避難行動を迅速に行います。